

廃棄物・リサイクル部会活動報告

廃棄物・リサイクル部会
部会長 金本 斉晃

1 部会での活動

「わがまち東海市を美しいまちにしたい」との思いで、私を含む部会メンバー5名は、3R推進協議会（全委員13名）に参画し、委員としての活動を中心に取り組んできました。

活動の重点として、東海市における3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進するため、平成23年度～32年度の「第3次ごみ処理基本計画」の策定に向けて、それぞれの立場から提案や意見交換をしてきました。



2 部会活動の主な内容

(1) 3R推進対策とごみ処理・処分の現状認識と検討

各委員から日頃感じているごみ処理・処分等の問題点を抽出して、現状課題を共有したうえで、課題解決に向けた取り組みの検討をしました。

委員から出た課題件数は、①3R推進（3件）②ごみ不法投棄（2件）③リサイクル（3件）④集積場所（9件）⑤ごみ・資源分別（8件）⑥ごみ指定袋（5件）。

平成22年3月には、委員の勉強会として、ごみ処理・リサイクル施設の見学会を実施し、委員の3Rに関する意識の向上を図りました。

見学先は、(株)上野清掃社エコステーション（プラスチック製容器包装中間処理）、東海市清掃センター、エコラ東海（食品用トレイ等リサイクル）、新日本製鐵(株)名古屋製鐵所プラスチックリサイクルセンター（プラスチック製容器包装の再商品化）。

(2) ごみ指定袋の見直し検討

平成21年7月に市が実施した「ごみ減量・リサイクルについてのアンケート」（市民3,000人無作為抽出、回収率58.5%）の結果と委員からの意見等を踏まえ、ごみ指定袋の配布枚数・容量等についての見直しの検討を実施しました。

主な見直し内容は、ごみ減量を図りながらも利便性を向上させるため、

- ①レジ袋式の小容量可燃用袋（20ℓ）の新設
- ②多人数世帯を6人以上から5人以上へ変更
- ③世帯区分別の可燃用袋配布枚数の変更（総容量は維持）

見直し内容は、平成22年10月の一斉配布から適用されます。

(3) 第3次ごみ処理基本計画策定に向けての検討

「ごみ減量・リサイクルについてのアンケート」の結果に加え、ごみ減量対策のアイデアを委員から募集し、市のアイデアとあわせて、ごみ処理基本計画への反映、今後の市の施策として活用していくための検討を実施しました。

(委員からの主な提案)

- ①集積場所の美化・ポイ捨てに関する地域町内会との連携
- ②樹木の枝葉のリサイクル
- ③生ごみの水分減量対策の推進
- ④過剰包装を断る活動の推進
- ⑤市民レベルの目標値の設定
- ⑥紙類の集積回収の見直し
- ⑦リサイクルプラザの開設 等



3 活動を通しての感想と今後の期待

われわれが生活を営むうえでは、ごみは必ず発生します。

ごみの発生を抑制するために、東海市においても、ごみ処理基本計画を策定し、3Rを推進しています。

現在進行中の「第2次ごみ処理基本計画」では、目標値に対して未達の実績もありますが、計画を策定した当時との比較においては、ほとんどの項目において改善が見られます。

これもひとえに清掃センターが市の中心的な役割を果たして、活動してきた成果であると思っています。

今回、廃棄物・リサイクル部会の委員として活動して、「第3次ごみ処理基本計画」の策定に向けて、それぞれの立場から提案や意見交換をして、ごみ問題を真剣に考える機会を与えていただいたことにより、私を含め委員の意識もさらに向上したものと思います。

今後は、より多くの市民に委員を経験してもらい、市民一人ひとりが地域の主体となり、「できることから始める小さな活動の輪」を地道に継続的に広げていくことにより、東海市が、今以上に「美しいまち」となること期待します。

さらには、市民主体の活動が定着することにより、「意識しなくともごみが減る社会」が実現される日がくることを期待します。